



難民の定住を支援する

難民の支援には、さまざまな方法があります。たとえば、物資や住居などを提供する支援、法的な支援、仕事の提供、言葉や勉強を教える支援など。

ISSJでは、長期にわたり難民の「定住支援」を行ってきました。では、定住支援とは何でしょうか？

よく似た言葉に「生活支援」があります。福祉の分野では、「生活支援」とは、「利用者の意思を尊重し、その生活を支える、自分らしく人生を過ごせるように支援する」などとされています。また、「定住」とは「ある場所に住居を定めて生活すること。（前掲国語辞典）」とあります。つまり、難民の定住支援とは、「その人が地域の一定の場所に住居を定め、生活の拠点としながら、その人らしく生きていけるように支援すること」と言えるのではないのでしょうか。

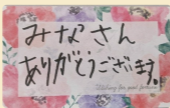
「生きることの苦痛」というのは、少し大げさな気もします。ただ、地域の中で暮らしを必要とする高齢者や障害者とは異なり、難民の苦痛を持つ人は一度生活を破壊され、移住した地で生活を再建しようとする人々です。彼らが新たに始めるのは事なる暮らしではなく、人生そのものと言っても過言ではありません。

現在、日本にはウクライナから千人以上の避難民が流れ、その中にはアフガニスタン、シリア、ミャンマーなどから逃れてきた人々が暮らしています。それぞれの生活再建には、多くの支援（＝多くの機会）が必要になります。当該の生活費の提供から、身体と心のケア、中長期的な教育や就労に関する支援も必要です。世帯主だけでなく一人ひとりの家族構成も、つまり、男性だけではなく子どもや女性、高齢の方々に対して、若ら・彼女らの意思を尊重しながら支援を進めなければなりません。当事者の声が反映されない支援は、どこかで一時的な事態を招きます。だからこそ、最初から彼ら・彼女らの声を聞くことが、何よりも重要なことです。

見知らぬ土地・異なる文化圏のある国で生活を立て直すことは、容易ではありません。戦争や災害を経験している日本人だからこそ、わかることもあるでしょう。ウクライナ避難民の受け入れを契機に、多様な人々への多様な支援が社会の中で定着し、一過性ではなく他の思いの支援が構築されると良いと思います。



難民の青年の専門学校進学資金、ご支援ありがとうございました！



日本でアルバイトのレストランを開くことを目指す難民の青年、専門学校入学が発表されました。皆さまのご支援を受けて、無事、4月7日に入学式を迎えることができました。入学費用をはじめとして、今後の目標が立つまでは、多い時には満額ほど、青年との面談を重ねてきました。

「料理を勉強するのだ」という強い決意とは裏腹に、どこか不安を隠せず、「もっかわらない」と、落ち巻かない様子を見つけていた彼ですが、入学の手続きが進んでからは、一転、自信に満ち溢れた表情を見せるようになりました。「大丈夫！難しくないです」という、彼が決まりの言葉も戻ってきました。それはもう、人の表情・気持ちはこんなにも短期間で変わるのだと驚かされるほどに。

それから、早くも2ヶ月が経とうとしています。5月初旬、ラマダンが終わってすぐに、レストランでのアルバイトも始めました。休む暇もない日々ですが、「料理大好き、楽しいです。問題ない！」と、前向きに張り詰めているようです。



激動の2ヶ月間を彼とともに経験し、先を見通せるということが、人にどんなに心安く思えるのか、ということを実感させられました。その安心感は、自信や生活の安定感にもつながっています。

多くの方々の応援があり、彼は夢を諦めずすみえました。ただ、彼のように「福祉の依頼」に思いやられ、その意思が尊重されれない状況に置かれてしまう人々は数多く存在します。生まれ育った国境によらず、すべての若者が夢に向かって歩めるよう、ISSJでは取り組みを継続していきたいと思えます。

*青年のストーリーはこちら [\(英語サイトへ\)](#)

(写真上：本人の卒業メッセージ/写真下：授業で学ぶ難民)

活動報告（養子縁組事業）

養親向けセミナーを開催



日本結社の後援事業として、3月に「こころの専門家と学ぶ養親向けオンラインセミナー」を実施しました。ISSJの「養子縁組後の相談窓口」に寄せられる相談では、養父母結婚後の養子の気持ちなどをよくに受け入れたらよいかわからないなど、養父母が関係しているものが多くあります。そこで、昨年開催した第一回と同様に、一般社団法人養親代表の上村恵氏を講師として招き、参加者同士の意見交換を交しながら学ぶ小規模セミナーを行いました。

セミナーでは、養父母・ライフストーリーワークは子どもだけでなく、養親自身も整理しない方法とタイミングで行うこと、養親は子どもの側面を答えるという姿勢ではなく、一緒に考える姿勢を見せて伝えること、そして子どものアイデンティティの発達に合わせた養親のサポートや言葉のように行っていくことなど、具体的な方法も含めて学びました。参加者の養親の方たちからは「心掛けてはいても専門家の方からその根拠と実体験を語って下さるので、自分のこれからの方向性に自信を持ってた気がする」、「養父母期に関連した子供の心構えについてより詳しく学べてよかった」などの感想とともに、こうした機会をさらに希望する声が高げられました。

特別養子縁組成立後の支援のあり方に関する調査研究に参加

2021年6月から2022年3月まで、本調査研究の特別委員としてISSJより業務理事の石川が参加しました。児童相談所および民間あっせん機関を対象とするアンケート＆ヒアリング調査を行い、特別養子縁組成立後の支援のあり方や記録の保管、開示方法などについて検討しました。報告書はこちら。

お知らせ

外国につながる家族と子どもへの相談支援オンラインセミナーを開催！

2020年度より実施している支援者向けオンラインセミナー、今年度も、「難民」、「多文化・多言語環境にある子ども」、「国境を越えて移動する子ども」など、全4テーマ、12講義という豪華ラインナップでお届けします。主な対象者は、実際に外国につながる家族や子どもとの関わりがある支援者となりますが、熱心をお持ちの一般の方ご参加も大歓迎です。セミナー開催概要、お申し込みはこちら。

ソーシャルワーカーのつぶやき vol.9



ある養子の方とのルーツ探しのやりとりを通して、お人柄にすこしだけ触れることができたかな・・・とおっ構、連絡が途切れてしまいました。帰りが遅くなるので、お電話がなかったかな、と心配をしていたある日、「今は、ルーツ探しは休憩していきます。今の時間を保つことにしたいと思っています」とのご連絡が。

その時に大切に感じることに多みを置かれたこと、「ひとやすみ」を選択されたこと、そして、それをポジティブに捉えていることを一緒に味わうことができました。気持ちの揺れ動きも含めてご自身を受け入れようとしてくれるしなやかなお姿に、尊敬の気持ちをお伝えしたいと思います。

「ひとやすみ」のその先にも、お手伝いできることがあったら嬉しいです。（記3回）

スタッフ紹介（櫻井環）



はじめまして、櫻井環と申します。昨年度にアルバイトとしてISSJに入職し、広報業務や日本語教室の補佐などを行っています。

地域や価値観がない状態で歩き回ることが好きで、コロナ禍の前は自力で徒歩でできる千里まで遠子になりながら、時間があふれるどこでも散策していました。最近は、Google Earthで探検しています。

私は、他のワーカーのように相談を直接お受けすることはありません。しかし、同じことは一つとしてない多様な人々や、支援者の方々と共に歩んできたISSJの軌跡を、業務を通して日々感じています。必要とする方々や皆さまに、ISSJの活動を届けていけるよう、これからも頑張ります。

「難民の定住を支援する」 難民写真
 Add your photo created by [freepress.com](#) - [www.freepress.com](#)
 People.com photo created by [jumpy](#) - [www.jumpy.com](#)

最後までお読みくださり、ありがとうございました。ISSJメルマガに関するご質問・ご意見がございましたら、issj@issj.orgまで、お気軽にお問い合わせください。

ISSJ公式Facebookをフォロー！

最新情報をお知らせするFacebookページにて、随時更新しております。よろしければご覧ください！

